

1 市（指定地区）の概要

- 那須烏山市は栃木県東部の山間部に位置し、人口は約27,000人です。
- 市内には公立小学校5校、中学校2校が設置されています。5小学校のうちの2校はそれぞれ中学校と隣接していますが、残りの3小学校は、中学校と離れた位置にある、いわゆる「分離型」です。
- 児童・生徒は徒歩、自転車の他、スクールバスやＪＲ烏山線を利用し通学しています。
- 本市は『英語ヴィレッジ構想』の下、全市を挙げて英語によるコミュニケーション能力の向上や英語に親しむ環境の整備を行っています。教育課程特例校の指定を受け、小学校第1・2学年で17時間、第3学年から第6学年で35時間、外国語活動を行ったり、全小・中学校にＡＬＴを配置したりするなど、構想の実現に向けて取り組んでいます。

2 小中一貫教育導入の背景

- 本市では「幼・小・中・高校一貫教育」を推進し、幼保・小・中・高校の接続や一貫教育の在り方を模索しながら、事業を推進してきました。
- 市教育委員会では平成25年度から小中連携・一貫教育推進事業を展開してきました。「まなびづくり」、「こころづくり」、「からだづくり」、「サポートづくり」を「4づくり」と称し、推進を図っています。中学校区ごとにそれぞれの部会を設け、小中学校で情報交換を行いながら、共通課題を確認し、その改善に向けた取組を行っています。
- これらの取組をベースにしながら、「英語ヴィレッジ構想」を柱に、より充実した小中一貫教育を構築しようと考え、本事業に取り組むこととしました。

3 具体的な取組内容

(1) グランドデザインの作成と周知

グランドデザインは、本市全体で平成25年度から取り組んでいる「ＡＢＣ／Ｒ運動」を軸に、「4づくり」部会が活動主体となるように作成しました。全教職員に配布し、中学校部会の冒頭で確認し、同じベクトルで小中一貫教育を推進しています。

(2) 研究テーマの設定

全小中学校が同じ目標を持ち、協働的に研究を進められるよう、小中一貫教育の柱となるテーマを設定しています。

【研究テーマ】

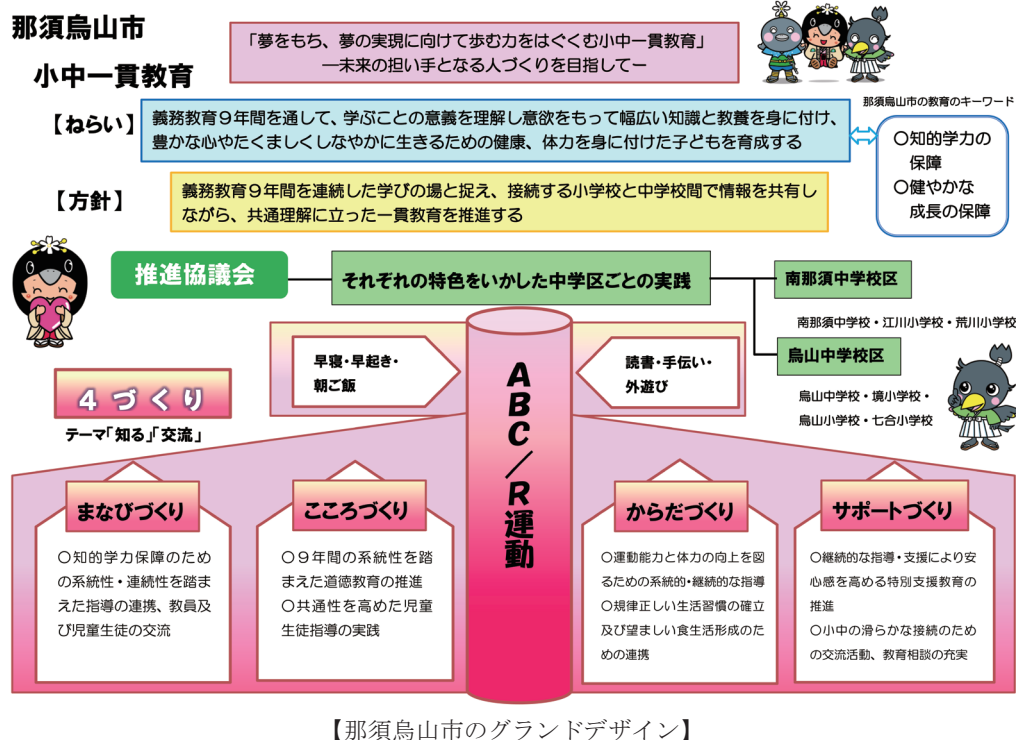
『英語ヴィレッジ構想に向けた英語力向上への取組』
ー中学校へ小学生が乗り入れ、共に授業することを通してー

(3) 推進協議会の実施

ア 推進協議会の実施

小中一貫教育を推進するための機関として、各小・中学校の校長を中心として推進協議会を立ち上げ、有識者を招致し、平成29年6月に第1回推進協議会を実施しました。

その中で、今年度のテーマ、事業計画等について協議しました。委員からは、市として小中一貫教育で目指すものなどの共通理解が必要であるという話題が出ました。



本市全体で取り組んでいるのが「ABC/R運動」である。

Aは「あいさつを交わそう」、B（ビフォア）は「時間前に行動しよう」、C（クリーン）は「環境をきれいにしよう」で、その土台となるのが、R（立腰）「腰骨を立てよう」である。

本運動は、平成25年度から全市一斉に取り組んでおり、各学校で定着していることから、この運動を軸に、4づくりそれぞれの部会の中で、めざす子ども像を共有し、バランスのとれた児童生徒を育成することを目指し作成した。

4 実践校の取組

【目指す子ども像の設定】

本市では、南那須中学校区と烏山中学校区の二つがありますが、重点である『まなびづくり部会』において、両学校共通の「目指す子ども像」を設定しました。

「目指す子ども像」の到達度は、学年末にテストを行うことにより把握し、次年度の目標設定の見直しを図っています。

設定した「目指す子ども像」は、「英語で簡単なあいさつができる（小1・2）90%」、「英語で簡単な買い物の言い方ができる（小3・4）80%」、「英語で簡単な自己紹介ができる（小5・6・中1）80%」、「英語で那須烏山市の紹介ができる（中2・3）80%」です。

(1) 南那須中学校区の取組

ア 学校の概要

南那須中学校区は、南那須中学校、江川小学校、荒川小学校の3校です。江川小学校は、各学年単学級、荒川小学校も各学年2学級と小規模の学校です。また、南那須中学校と荒川小学校は隣接しており、徒歩で交流できる環境となっています。

イ 中学校区部会の実施

本年度の事業の目的を確認するとともに、4部会（まなびづくり、こころづくり、からだづくり、サポートづくり）に分かれ、それぞれの今年度の目標（指標）を設定しました。

ウ 乗り入れ授業の実践

各校のALT主導のもと、異学年交流を通じたコミュニケーション能力の育成のため、小学校6年生と中学校1年生が相対し、英語で簡単な挨拶の練習などを行いました。

授業では、戸惑いながらも、和やかな雰囲気の中で活動でき、親近感も増したようでした。



【英語での挨拶の練習】

エ 講話

英語・外国語活動の学習において、那須烏山市の「おすすめスポット」について、市商工観光課の職員から話をうかがいました。その後、小学校6年生と中学校1年生が合同で那須烏山市の「おすすめスポット」のカルタを作成する準備を行いました。英語でのカルタ作成にとっても意欲的に取り組み、次回の活動についても話し合っていました。



【市商工観光課職員の講話】

オ 成果と今後の展望

中学校に2校の小学生が乗り入れ、一緒に活動したことはお互いを知るという意味で大変有意義なものとなりました。英語でのカルタ作成が、今後さらに絆を深めていくことを期待したいと思います。

(2) 烏山中学校区の取組

ア 学校の概要

烏山中学校区は、烏山中学校、境小学校、烏山小学校、七合小学校の4校です。

境小、七合小学校は単学級で、烏山小学校は学年2～3学級である。また、烏山中学校と烏山小学校は隣接しており、校舎間を徒歩で交流できる環境です。

イ 中学校区部会の実施

本年度の事業の目的を確認するとともに、4部会（まなびづくり、こころづくり、からだづくり、サポートづくり）に分かれ、それぞれの今年度の目標（指標）を設定しました。

ウ 乗り入れ授業の実践

学区内すべての小学校6年生が、スクールバスで中学校に乗り入れ、中学校の教室を使い、小・中学校教員とALTによる英語コミュニケーション科の授業を受けました。

実施は、職場体験学習で空いていた中学校2年生の教室を有効に活用しました。

授業は、異なる学校の児童を交ぜたクラス編成を行い、いずれ同じ中学校に進学する児童同士の交流の場にもなるよう工夫しました。

児童は、環境の変化に戸惑いながらも、徐々に他校の児童とも慣れ親しみ、楽しく活動できました。



【乗り入れ授業の様子】

エ 成果と今後の展望

中学校に3校の小学生が乗り入れ一緒に活動したことにより、中学校での学習に対するイメージが広がりました。英語の学びを通じて縦と横の垣根が低くなり、スムーズな接続となることを期待しています。

5 成果（進捗状況）と今後の課題

（1）成果（進捗状況）

平成29年度は、具体的なテーマを設定し、マネジメントの充実を図りました。小中一貫教育によって、何を、どう実施し、何ができるようになるのかを明確にすることができました。また、事業を焦点化・重点化することで、事業実施による児童生徒の変容を実感できるようにしました。

（2）今後の課題

児童と生徒の交流を通して、職員同士の交流がより一層積極的に行われていくことが、小中一貫教育を根本から支えていく土台となると思われます。今後も、つながりを保てるような工夫をしていく必要があると思われます。